



季節によって、雲の形がちがうのはなぜなの

雲はできる高さによって、形がちがう

雲は雲ができる高さ、形のちがいによって、上層の巻雲、巻積雲、巻層雲、中層の高積雲、高層雲、乱層雲、下層の層積雲、層雲に分けられます。また、上層から下層まで広がる雲に、積雲、積乱雲があります。

同じ種類の雲でも、北極や南極の極地方、温帯地方、熱帯地方などの地域のちがいで、高さが変わります。熱帯地方は高く、極地方へ行くほど低くなります。

季節のちがいで、よく現れる雲の種類が変わる

春には、すじ雲（巻雲）がよく見られます。この雲は形が変わるのが速く、30分もしないうちに、うす雲（巻層雲）に変わります。

夏によく見られる雲は、かみなり雲（積乱雲）です。もくもくとした雲が空高く上がっていき、雲の高さが、10キロメートルをこえるようになると、横に広がり始めます。

秋の雨上がりの後に、ひつじ雲（高積雲）が見られます。雲に厚みがあって、ヒツジの群れのようなのです。

冬の日本海にできた雲が、太平洋側にふきぬけている所があります。この雲は、ふきぬけ雲とよばれる、かみなり雲（積乱雲）です。

季節によって雲の形がちがうのは、上空の気温や、太陽による地上の暖められ方が、季節によってちがうことと、低気圧の通る所が季節によって、日本に近づいたり、はなれたりすることなどが原因です。（監修・村山 貢司）

